

ON THE ROAD

久留米市立屏水中学校3学年進路通信 No. 6

2021. 6. 10 文責 保坂圭祐

6月10日は「時の記念日」です。

大正時代、東京教育博物館は、当時の社会教育を意識した様々な展示会を開催していた。一連の展示会が契機となって伊藤博文を会長とする生活改善同盟会が発足し、日常の生活改善の十項目として、第一に「時間を正確に守ること」を掲げた。

1920年(大正9年)、当時の文部省が「時」展示会を企画し、5月16日から開催されると連日の大盛況で会期延長となり、入場者22万人を動員するなど大きな反響となった。この「時」展示会の期間中に主催者間で提案されたのが「時の記念日」であり、「日本書紀」にある天智天皇10年(671年)6月10日に、日本で初めて「漏刻」と呼ばれる水時計による時の知らせが行われたとされる故事からこの日となった。

時の記念日の制定には、当時欧米の先進国から

「日本人は時間の感覚に乏しい」とみられていたことから、時間に関心を持ち、規律正しく効率的な生活を習慣化する啓発の意味があったといわれている。



ということで、今回は「時間」をテーマにした話題を一つ。

2010年甲子園春夏連覇の裏にあったもの

2010年3月、第82回選抜高校野球大会(春の選抜)で沖縄県の興南高校が初優勝を飾りました。その時のエースは島袋洋奨さんでした。初優勝を飾り沖縄に戻った島袋さんは、夏の全国大会(夏の甲子園大会)で優勝することを次の目標にしましたが、どんなことを考え、どんな練習をしたと思いますか。

島袋さんは、日々の練習時間の中で、レインコートを着てランニングをすることを毎日の自分の練習メニューとして取り組みました。その理由は、次の通りです。

甲子園で優勝するためには、8月の暑い時期で、しかも日中で一番暑い時間帯に予定されている決勝戦で最高のピッチングをしなければならない。(=目標達成(ゴール)のために解決しなければならない課題。) そのためには、暑さに負けない体力をつけなければならないので、甲子園の暑さをイメージするためにレインコートを着てランニングをする。

(=課題を解決するための工夫。) しかも、練習試合のない土日は決勝戦が予定されている時間帯に、平日の練習では日が沈んだあとの涼しい時間帯ではなく、練習時間帯の中で一番気温の高い、日が沈む前の練習開始直後の時間帯にランニングをする。(=時間の工夫) これだけが島袋さんの努力すべてだとは思いませんが、結果として、目標としていた第92回全国大会で優勝し、その試合でのピッチングを「暑さを感じさせない、涼しげな表情でのピッチングだった」と評する人もいました。

24時間をどう使うのか?

私が島袋さんに注目したのは、真夏にレインコートを着てランニングしていたことと、暑い時間帯にランニングをしていたということです。おそらく練習時間は、他の部員と同じだったと思います。しかし、島袋さんは、その中でどの時間にランニングをするのかを考えて実行したこと(=時間の使い方)に学ぶべき点があると思います。

目標を決め、それを達成するために予想されることをイメージし、その課題を克服するための工夫を行う。そして、日々の24時間の中で、どの時間帯にどんなことをしていくのか計画を立てて、実行していく。このことは、野球に限らず、他のことにも通用することだと考えます。

